

第7回ごみと水を考える集いからのアピール

本日、名古屋市港区の藤前会館に山、川、里、海で活動する市民団体・行政等28団体63人が参加して、第7回「ごみと水を考える集い」を開催しました。

私たちは、矢田・庄内川をきれいにする会の間野静雄さんの「庄内川水系にアユ遡上100万匹大作戦」の記念報告に、アユ目線の環境保全を勉強しました。二つの特別報告、「イオン名古屋茶屋店チアーズクラブの取組」では、藤前干潟と恵那市三郷町のクリーン大作戦等に参加した子どもの皆さんの率直な感想や意見を新鮮に受け止めました。「2017年度藤前干潟のヨシ原調査の報告」では、多面的なヨシ原調査でまた一歩進んだ成果を知ることができました。

台風21号による強烈な漂着ごみの実態などの話題提供に続いて行った、四つの分散会では、参加団体の取組発表を聞き・交流すると共に、「漂着ごみの発生源対策」等について、有意義な話し合いをし、今後の取組に対する認識を新たにすることができました。活動報告では、各団体が、山・川・里・海で積極的に各種イベントを企画・展開し、多くの参加者と共に、自然環境の大切さを啓発し保全に努力していることが具体的に報告されました。

第1回から第7回までの「集い」を通して、「ごみと水を考える」ネットワークづくりに賛同頂いた団体は60団体を数えるになりました。

2012年1月に「第1回ゴミと水を考える集い」を開催し、7項目アピールを採択し、みんなで「答志島にゴミ拾いに行こう」と確認したことを契機に「22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」が結成されました。その後の6年間で7回の奈佐の浜海岸の清掃活動と5回のエクスカージョン活動を重ねてきました。今年の流域エクスカージョンは、三重県四日市吉崎海岸で開催するべく準備が進んでいます。

奈佐の浜プロジェクトの活動に参加した多くの団体が、自らのフィールドでの取組の大切さと、流域一体の清掃活動の強化と啓発活動が重要なことを再認識しました。

本日の「集いの報告」と「漂着ごみへの取組」の話し合いは、私たちが水の循環で繋がっていること。漂着ごみを通して、すべての流域と伊勢・三河湾が繋がっていることを再認識しました。各地の団体と人が繋がり、交流・連携を深めることもできました。

ごみを捨てるのは人間だけです。人間だけがごみを造り、ごみを出して自然環境を痛めつけています。私たち人間の責任で「ごみが生まれない社会創り」の実現をめざしましょう。

私たちは、呼びかけます。

- 子どもたちが安心して元気に遊べる水辺を取り戻しましょう。
- たくさんの生きものたちが生息する場を取り戻しましょう。
- ごみを見つけたら勇気を出して拾いましょう。
- ごみを捨てない大人と子どもをはぐくみましょう。
- ごみが生まれない社会を創りましょう。
- 山、川、里、海それぞれで活動する人どうしの繋がりをつくりましょう。
- 流域全体で人と自然が共生する環境を創りましょう。

2018年1月21日

第7回藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い参加者一同

<アピールを採択した第7回ごみと水を考える会参加の市民団体等>

中部大学応用生物学部上野研究室、中部大学ボランティア・NPOセンター、名古屋市立名古屋商業高校、四日市大学千葉賢教授、22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会、NPO法人香流川をきれいにする会、NPO法人藤前干潟を守る会、NPO法人堀川まちネット、一般財団法人みなと総合研究財団、土岐川・庄内川流域ネットワーク、新川をよみがえらせる会、土岐川・庄内川源の森委員会、藤前干潟クリーン大作戦実行委員会、尾張西部生態系ネットワーク、矢田・庄内川をきれいにする会、名古屋市野鳥観察館、伊勢三河湾流域ネットワーク、港栄第一クラブ、イオン名古屋茶屋店チアーズクラブ

<アピールを採択した第5回ごみと水を考える会参加の行政・公的機関>

愛知県環境部資源循環推進課、愛知県建設部河川課、三重県環境生活部大気・水環境課、名古屋市環境局環境活動推進課、名古屋市緑政土木局河川計画課、環境省中部地方環境事務所、環境省名古屋自然保護官事務所、国土交通省庄内川河川事務所、名古屋港管理組合港営部港営課